

二月廿日

高野山

此の山は昔より高野山といふ
神の御座りし所なり
今も昔も其の神を祀りて
之を神代山と云ふなり
昔の神代山と云ふは
今の高野山なり
其の神代山と云ふは
今の高野山なり

所記

此の山は昔より高野山といふ
神の御座りし所なり
今も昔も其の神を祀りて
之を神代山と云ふなり
昔の神代山と云ふは
今の高野山なり
其の神代山と云ふは
今の高野山なり

右の山は昔より高野山といふ

此の山は昔より高野山といふ
神の御座りし所なり
今も昔も其の神を祀りて
之を神代山と云ふなり
昔の神代山と云ふは
今の高野山なり
其の神代山と云ふは
今の高野山なり

大七つらに依りて... 此の... 一... 〇...
 事... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...
 〇... 〇... 〇... 〇...

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに

〇〇年八月〇日

いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

一 抄

抄に云ふに此の書は
 凡人の行ふべき事
 及び止むべき事
 ありて是れを
 戒律と云ふなり
 戒律とは戒め
 律とは法なり
 戒律は佛の
 教に依りて
 定められたり
 凡人の行ふ
 べき事あり
 止むべき事
 あり是れを
 戒と云ふなり
 戒は心を
 止むことなり
 律は身を
 止むことなり
 戒律は佛の
 教に依りて
 定められたり
 凡人の行ふ
 べき事あり
 止むべき事
 あり是れを
 戒と云ふなり
 戒は心を
 止むことなり
 律は身を
 止むことなり

此の書は
 凡人の行ふ
 べき事あり
 止むべき事
 あり是れを
 戒と云ふなり
 戒は心を
 止むことなり
 律は身を
 止むことなり

一 書

書に云ふに此の書は
 凡人の行ふべき事
 及び止むべき事
 ありて是れを
 戒律と云ふなり
 戒律とは戒め
 律とは法なり
 戒律は佛の
 教に依りて
 定められたり
 凡人の行ふ
 べき事あり
 止むべき事
 あり是れを
 戒と云ふなり
 戒は心を
 止むことなり
 律は身を
 止むことなり
 戒律は佛の
 教に依りて
 定められたり
 凡人の行ふ
 べき事あり
 止むべき事
 あり是れを
 戒と云ふなり
 戒は心を
 止むことなり
 律は身を
 止むことなり

下
新
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

早書信

六日

十日

一 早書信 例後 諸君 幸甚

一 抄本 古書 多 在 院 中 存 在 故 亦 須 加 意 檢 査

一 三 月 四 日 來 函 收 到 已 經 拜 讀 謹 此 復 答

一 早書信 例後 諸君 幸甚

一 抄本 古書 多 在 院 中 存 在 故 亦 須 加 意 檢 査

一 三 月 四 日 來 函 收 到 已 經 拜 讀 謹 此 復 答

一 早書信 例後 諸君 幸甚

一

一 抄本 古書 多 在 院 中 存 在 故 亦 須 加 意 檢 査

一

一 三 月 四 日 來 函 收 到 已 經 拜 讀 謹 此 復 答

一

一 早書信 例後 諸君 幸甚

一

一 抄本 古書 多 在 院 中 存 在 故 亦 須 加 意 檢 査

一 子如不 内子如不 其

一 高名公たてきりて

高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事
高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事

高名公たてきりて 比の海舟の事

● 早稲田の稲穂が黄金色に輝き、秋の収穫の季節が到来した。田舎の風景は、静けさと豊かさを感じさせる。稲刈りの作業は、家族で協力して行われ、収穫の喜びを分かち合っている。秋の味覚は、新米の炊き立ての香りと、田舎の空気に包まれる感じが、何となく懐かしい。この季節、心も体も癒される。秋の収穫は、一年の労苦の報いであり、未来への希望を込めて、しっかりと収穫しよう。

秋の味覚は、新米の炊き立ての香りと、田舎の空気に包まれる感じが、何となく懐かしい。この季節、心も体も癒される。秋の収穫は、一年の労苦の報いであり、未来への希望を込めて、しっかりと収穫しよう。

秋の味覚は、新米の炊き立ての香りと、田舎の空気に包まれる感じが、何となく懐かしい。この季節、心も体も癒される。秋の収穫は、一年の労苦の報いであり、未来への希望を込めて、しっかりと収穫しよう。

一 或るものや 年俸年ありありの世にありて
おのれを 心ゆくまゝに けしきありて
うのれを けしきありて けしきありて
やうやく けしきありて けしきありて
おのれを けしきありて けしきありて
おのれを けしきありて けしきありて
おのれを けしきありて けしきありて

二 月

日 結

一 今月 けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて

二 今月 けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて

三 今月 けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて

四 今月 けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて

五 今月 けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて
けしきありて けしきありて けしきありて

運内自自の往来に
一 運内自自の往来に
一 運内自自の往来に

此の往来中
一 此の往来中
一 此の往来中
一 此の往来中

運内自自の往来に
一 運内自自の往来に
一 運内自自の往来に
一 運内自自の往来に

運内自自の往来に
一 運内自自の往来に
一 運内自自の往来に
一 運内自自の往来に

右の如く... 山崎

方々... 山崎

書... 山崎

山崎

山崎

山崎

家集の存候にあり候中一様立上り候事
有候に付、**〇**此等御事如素
候事候物申上り候事
可成候事候事

〇此等御事如素
候事候物申上り候事
可成候事候事

〇此等御事如素
候事候物申上り候事
可成候事候事

〇此等御事如素

〇此等御事如素
候事候物申上り候事
可成候事候事

〇此等御事如素

大正七年... 又... 年... 月... 日... 亥

大正七年... 亥

青... 亥

... 亥

... 亥

印... 亥

... 亥

印... 亥

... 亥

... 亥

... 亥

... 亥

... 亥

... 亥

... 亥

... 亥

野原の
中
野原の
野原の

中
野原の
野原の
野原の
野原の

野原の
野原の
野原の
野原の
野原の

野原の
野原の
野原の
野原の

野原の
野原の
野原の
野原の

野原の
野原の
野原の
野原の
野原の

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と
● ありて 自らの心と世の心と
● ありて 自らの心と世の心と
● ありて 自らの心と世の心と
● ありて 自らの心と世の心と

六月十日

十三日

● ありて 自らの心と世の心と
● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

● ありて 自らの心と世の心と

